
目次

1. インストールと環境設定	
1-1 前提条件	2
1-2 プログラムの解凍	4
1-3 Magic 側の設定	4
1-4 PDF 出力ソフト側の設定	7
1-5 PDF 出力ソフトの割り当て	9
1-6 仮想ディレクトリの設定	11
1-7 データベース固有の設定 (Pervasive の場合は不要)	
MS-SQL Server を利用する場合	13
ORACLE を利用する場合	17
2. WIT 顧客 RIA の起動	21
3. WIT 顧客 RIA 内での設定	
3-1 メール関連の設定	22
3-2 ツール関連の動作テスト	23
4. ReportsMagic の使用に関して	25
5. RIA サーバ版を使って運用する場合	26
6. WIT 顧客 RIA が起動しない場合	38

第1章 インストールと環境設定

本システムは、Magic xpa 3.1 用の顧客管理パッケージとして作成いたしました。
製品付属の CD-ROM の中身は、以下のようになっています。

ファイル名 (フォルダー名)	内 容
WitKokyaku31a.zip インストールガイド 操作ガイド 開発者ガイド	本システム一式の自己解凍モジュール 本書 操作説明書 開発者向けの解説書

1-1 前提条件

本システムを実行するためには、以下の環境が整っていることが前提条件になります。

・「Web サーバ (IIS: Internet Information Service)」

Windows 7/8/10 においては、デフォルトでは IIS が有効になっていませんので、事前に自分で有効にしておく必要があります。
またその時、IIS の機能を追加しておく必要があります。
これについては、Magic xpa ReadMe 内の「参考技術情報」の「Windows7/8/10 利用時の注意事項」をご覧ください。

・「.Net Framework 4.0 以上」

Magic xpa は .NET Framework を必要とします。RIA アプリケーションを実行するクライアントマシンおよび開発マシンにおいて .NET Framework 4.0 以上を有効にしてください。

- Windows 7 においては .NET Framework がデフォルトで有効になっています。
コントロールパネルの「プログラムと機能」の「Windows の機能の有効化または無効化」で確認できます。
- Windows 8/10 においては .NET Framework がデフォルトでは無効になっていますので、コントロールパネルの「プログラムと機能」の「Windows の機能の有効化または無効化」で有効にしてください。
- Windows Server においては、サーバマネージャーの「機能の追加」で .NET Framework を有効にしてください。サーバ OS のバージョンによっては、OS のインストールメディアが必要となる場合があります。

・「Magic xpa 3.1 開発版 (Enterprise Studio)」

まずは開発版で動作確認をします。
実際に本番稼動する場合には、「Magic xpa RIA Server」が必要になります。
Magic xpa 製品のインストールについては Magic xpa 製品のインストールガイドをご覧ください。

・「データベースエンジン」(以下のうちいずれか)

- ・Pervasive v11 for Magic, v12 for Magic
- ・MS-SQL Server ... 2008/2008R2, 2012, 2014
- ・ORACLE 11g, 12c

DB エンジン以外に、各 DB にアクセスするための Magic 用ゲートウェイが必要になります。
各ゲートウェイは、Magic xpa インストール時に一緒にインストールしてください。